

FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長：村松英昭 副会長：小宮弘一郎
幹事：後藤 功 副幹事：青島 彰

第1696回

<ソング> それでこそロータリー
<ソングリーダー> 池ノ谷敏正君



2006-2007年度
RIテーマ

率先しよう

ウィリアムB. ボイド



ストレプトカーパス

写真提供：櫻井龍太君

会長報告

村松 英昭君

こんにちは、今年も年の暮れが近づいてまいりました。今日をふくめ、今年の例会もあと2回となりました。

次週20日は、クリスマス家族例会です。奥様、お子様、お孫様をおさそいの上、お出かけ下さい。前島親睦委員長が、みなさまに楽しんでいただけるクリスマス会を企画いたしております。ぜひ、大勢でお出かけ下さい。

私が、会長に就任し、早や半年になります。あっという間のこの半年でした。毎週水曜日が追いかけてくるような日々でした。

来年2007年からは、少しゆったりと、落ち着いて例会を楽しみながら会長職をやっていきたいと思います。今年、最後のお願いになりますが、ぜひ皆様のお力で新会員を、勧誘し入会させていただきたいと思います。新しい血が入ることで、クラブ活性化します。ぜひ、皆様よろしく願いします。

理事会報告

後藤 功君

- 12月、1月のプログラムが増田プログラム委員長より報告され承認されました。
- 前島親睦委員長よりクリスマス夜間例会、及び新年賀詞交換会について報告があり承認されました。詳細はまた、例会にて報告していただきます。
- 明誠高校駅伝全国大会出場に伴う賛助金は例年通り¥10,000とすることで承認されました。

- カウエ君パソコン使用料の件は岩田さんとカウエ君との行き違い等があり、すでにクラブとしてはお支払い済みです。カウエ君からの支払いがなくてもクラブとして処理済みとすることで承認されました。
- 白山RC40周年の折家族旅行開催について当初、親睦委員会と進めていく予定でしたが、親睦の都合もあり、改めて35周年特別委員会と相談していくことでご承認戴きました。

幹事報告

後藤 功君

- 藤枝市サッカー協会より、第15回藤枝市長杯争奪ジュニアユースサッカー大会並びに、歓迎レセプション開催のご案内が届いております。また、本大会協賛のご依頼も届いております。
- 国際ロータリー日本事務局より「ロータリー財団地域セミナー、ハンドブック」が届いております。
- (財)麻薬、覚せい剤、乱用防止センターよりNEWS、LETTER第73号が届いております。
- 藤枝子どもと本をつなぐ会通信No35が届いております。

出席報告

青島 彰君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
29/41 70.73%	28/41 68.29%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○石垣君 ○村松宏君 ○松葉隆君 浅川君

板倉君 桜井富君 鈴木晶君 鈴木舜君
仲田晃君 成瀬君 望月晃君 望月志君

■ ビジター

鈴木 和夫君（静岡）米山奨学生カウンセラー

■ スマイル B O X 青島 彰君

- 大変お世話になり有難うございました。どこで会っても、オーイと声を掛けて下さい。

宮川 邦光君

スマイル累計額 486,268円

■ 米山委員会 米山奨学生卓話



米山奨学会
カウンセラー

鈴木 和夫様

『日本人と
ボランティア』

聶 清様



皆さん、こんにちは。

時の流れは速いもので、私が日本に来てからもう四年間になります。四年間の日本生活はあっという間でした。正直に言うと、日本での一人暮らしは本当に大変でした。料理、洗濯、勉強はもちろん、自分のことにちゃんと責任を持たなければなりません。ですが、この四年間があったからこそ、楽しいことも苦しいことも胸一杯張っています。

四年の間、よく「日本はどうですか」という質問をされますが、日本に来たばかりの時、いつも「日本は素晴らしい国です、自然環境、風景もいいし、人もやさしくて、人情が温かいです。」というお世辞のような答えしかできなかったのです。

どこが素晴らしいかということについては、正直に言えばその時の私にはわかりませんでした。四年間で、私はできるだけ様々なことを体験して、いろいろな人と付き合おうとしてきました、これらのことによって、日本、そして日本人というイメージが、すこしずつ頭の中ではっきりしてきたと感じています。今日、このスピーチで、私は自分の体験から、ボランティアと日本人について話して見たいと思います。

日本の皆さんはきっとボランティアをしたことがあると思います。私が日本に来て初めてボランティアに会ったのは四年前の時でした。

四年前、日本に来たばかりの時はまる、ばつさえ言えませんでした。そんな私に毎週一回決められた時間に来て、日本語の会話の相手になってくれる一人のボランティアがいました。一週間に一時間のその時間は、私にとって学校で勉強した文法を、日常会話で活用できる唯一の機会でした。でも、いつも忙しそうに見える彼女が、なぜ身も知らぬ私に何の報酬もなく付き合ってくれるのか、その時の私にはわかりませんでした。「どうして」という私の質問に、「楽しいから」と言ってくれる彼女を不思議な人だと思いました。

幸いに、大学院に入ってから校内にはボランティアを募集する掲示がいつも張ってあります。同じゼミで勉強している日本人学生の中でボランティア活動に参加する人はかなりいます。これがきっかけで私もボランティア活動について関心を持ち、そして、活動に参加しました。中国語を教えるとか、小学校を訪問するとか、異文化の交流とか、活動内容はとても豊富でした。だんだん私はボランティア活動を通じて、彼女の楽しさが少しですが、やっと分かるようになりました。

以上の経験から私は、人から何かをしてもらうばかりではなく、逆に自分からも人のためになることをしようということが大切だと考えるようになりました。残りの半年、これから日本に居るうちに、そしてこれからの人生も、一つ一つの困難

を乗り越え、自分の夢に向かって頑張りを続けることができると思っています。このような日本人のいい面を見習って、自分の留学生活、これからの人生を充実していきたいと思います。

最後に、全く知らない外国人学生に対し毎年多額の奨学金を与えてくださるロータリアンのおかげで、何不自由なく、勉強に打ち込むことが出来た事に大変感謝しております。私はこの「感謝の気持ち」を持ち続けるため、今は可能な限りボランティア活動を通して、ロータリアン、ひいては日本の社会に恩返しして行きたいと思っています。将来、「暖かい心」を持った日中友好の架け橋になりたいと強く願っています。

(担当／櫻井龍)